

II

FUTURE VISION

**品川駅・田町駅
周辺地域の将来像**

国内外への広域交通アクセスに優れた立地特性を活かし、グローバル企業や先端技術を有する成長企業等の集積する最先端のビジネス環境を形成し、海外企業の集積地が形成される。

また、ビジネス機能を支えるため、利便性が高く上質な都市型居住空間の形成を図るとともに、多言語に対応したサインや生活関連施設の提供など、ストレスフリーに過ごすことができる生活環境などの機能を確保する。

さらに、全ての人が安全・安心に働き、生活できるよう、日本の誇る高い防災技術をいかし、事業継続性等に優れた地域の形成を目指す。

将来像

①

国内外のビジネスパーソンの活力にあふれる
最も進んだビジネスのまち

[品川駅・田町駅周辺地域の将来像]

これからの日本の成長を牽引する 国際交流拠点・品川

将来像

②

世界の人々が集い交わる
文化・知の交流のまち

広域交通アクセスに優れた特性をいかすとともに、地域内の移動がしやすいまちを形成することで、国内外の人々の交流を生む場を創出していく。

また、国際会議やコンベンション等に世界のトップランナーが集い、先端技術や国際文化などの多様な交流等を行い、新たな価値を創造する場となるMICEの拠点を形成していく。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、諸外国からの来訪者が一層増加することが見込まれるため、訪れる人々に、文化の魅力を発信する観光コンシェルジュとしての役割を担うまちを形成していく。

将来像

③

世界に向けた
次世代型の環境都市づくりを実現するまち

崖線の緑、東京湾や運河の水辺などの環境資源を活かし、水や緑、流れる風を体感できる環境都市を実現していく。

さらに、高い環境性能を有する建物、再生可能エネルギーや自立分散型エネルギーの導入等、最先端の環境技術を導入した環境配慮型の都市を実現していく。

最も進んだビジネスのまち

▶ 国内外のグローバル企業や成長する海外企業の集積地が形成

- 広域交通アクセスの良さを強みに、先端技術を有する企業等による既存の産業集積を誘導し、**働き、訪れるグローバルなビジネスパーソンの多様な活動が行われるまち**を形成していく。
- 高規格なビジネス空間とビジネスミーティングや国際会議の場などが融合し、環境技術や医療・福祉分野などの成長産業育成の場となる**知識創造型ビジネス環境を形成し、世界のビジネスパーソンの憧れの的**となるまちを目指す。



▶ 世界が憧れる上質な都市型居住・外国人等にとってもストレスフリーな生活環境が実現

- 緑や水辺、そよ風を感じるアメニティ豊かな交流空間と、都市型住宅やサービス・アパートメント、教育環境、レクリエーション環境がコンパクトに集積し、**職住学遊が近接した上質な都市型居住空間**を形成していく。
- アジアヘッドクォーター特区制度を活用した環境整備を進めるとともに、多言語サイン表示や、外国語対応の生活関連施設(インターナショナルスクール、医療施設、行政窓口等)、世界各国の飲食店、文化・レクリエーション施設など、**外国人等にとっても分かりやすく、ストレスフリーに生活を楽しめる環境**を創出していく。



▶ 世界からみても高い安全・安心を得られる防災空間が形成

- 耐震性の高い建築物やインフラ、非常用電源設備などによる高い事業継続性、地域活動を含めた災害への備えなどハード・ソフト両面の都市防災性が評価され、**信頼のある安全・安心なまち**を形成していく。
- 首都直下地震など大規模災害時には、交通結節点としての機能を活かし、**防災上の多面的な役割を担うまち**を形成していく。



▶ 世界と日本、国内と東京をつなぎ、 世界の人々を迎え入れる交通結節点・都市空間が形成

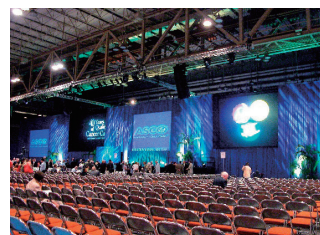
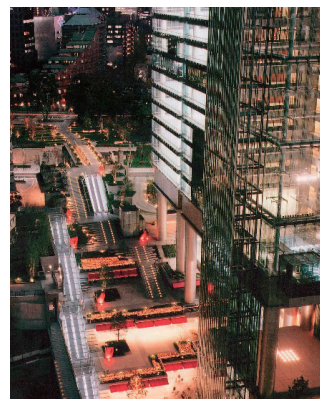
- 世界につながる羽田空港とのアクセス強化、国内各都市を結び
ニア中央新幹線の整備及びJRの新駅整備に加え、高速バスなど
の様々な交通が充実した、**国内外の新たな交流拠点にふさわし
いアクセス性の高い都市**を実現していく。
- **まちのにぎわいに資する重層的な歩行者ネットワーク**を形成する。
- 日本の玄関口である品川駅周辺において、**公共空間と建物を一体
的にデザインし、水と緑の豊かさをいかした都市空間**を創出する。

▶ 世界のトップランナーを呼び込む 知的交流の場となるMICEの拠点が形成

- 国際交流都市東京を牽引していく拠点として、高機能の国際会
議場や多様なニーズに応える交流・宿泊施設を有し、多数のコン
ベンションや、産官学共同のセミナー、情報交換会、先端技
術フォーラムなどに**世界のトップランナーが集い、新たな価値を
創造する知的交流がなされる場**を形成していく。
- 水辺に顔を向けた魅力的な飲食店での食事や、運河を活用したイ
ベントなど、**アフターコンベンションでも楽しめる場**を形成していく。

▶ 日本の文化体験や国内観光の魅力を発信する 観光コンシェルジュ機能が確立

- 2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、
日本、東京を訪れる人が最初に立ち寄る地として、ホスピタリティ
の高いサービスを提供する宿泊施設の集積を図る。また、ビジ
ネスパーソンや観光客に文化や旧東海道等のまちの魅力を紹介
するなど、**観光をより快適で魅力あるものとするコンシェルジュの
役割**を担うまちを形成していく。
- 東京と地方都市が連携した各種MICE・観光プログラムが展開され、
アクセスの良さをいかしてその中心的な役割を担うまちを形成していく。



出典：JR東海
<http://linear.jr-central.co.jp/index.html>



次世代型の環境都市づくりを実現するまち

▶ 水や緑、流れる風を体感できる環境都市が実現

- 地域のセントラルパークとなる緑のまとまりや、運河等のオープンスペースを確保し、緑と水辺をネットワークとしてつなげていく。良好な水辺景観が確保された美しい運河や、高輪台地からの眺望など、品川らしい風景として印象に残る都市空間を形成していく。
- 計画的な建物の配棟や形状により、東京湾からの風を引き込む風の道を確保する。また、緑豊かな街路樹や緑陰空間が連続したプロムナードなど、夏場でも涼しい快適な環境を創出していく。
- 台地の地形や運河の水辺など、地域の特色を活かした魅力的な生活環境を創出していく。

▶ 最先端の環境技術を導入した環境配慮型の都市を実現

- 面的エネルギーや最先端の低炭素技術を導入した高い環境性能を有する建物が建ち並び、世界から人が訪れる環境配慮型の都市を形成していく。
- 低炭素に配慮した環境インフラの導入により、同時に自立分散型のエネルギーネットワークの確保を図り、高い防災性能を確立していく。



本ガイドラインでは、地域の特性を考慮し、各地区別の将来イメージを次のように設定する。

文化と緑のゾーン（高輪側）

周辺地域と一体となった、緑や文化の魅力あふれる世界の人々をもてなす多様な機能を有する場

田町駅西口地区
多様な機能が集積する新拠点

- 居住・業務・商業・教育・文化などの多様な機能が集積する複合市街地

東西交流軸
環状4号線沿道

- 地域内外との、ビジネス、観光等の多様な交流を促進させる架け橋
- 緑と水辺をつなぎ、景観との調和に配慮した、沿道空間

南北交流軸
国道15号沿道

- 風格ある沿道空間を備えた、21世紀の東海道
- 災害時に地域内外を支える緊急輸送路

品川駅西口地区
国際業務・MICE

- 品川駅と一体となった、利便性の高い国際業務、MICE空間
- 歴史・文化や崖線の緑を活かした、国際性の高い交流と居住の場

東西をつなぐ交流のゾーン

国内外から人が集い、国際的な業務等、多様な都市活動を展開する場

品川駅北周辺地区
国際業務

- 規模を活かした国際競争力を高める国際業務、MICE空間
- にぎわいと都市力の向上に資する、国際性の高いビジネス拠点と文化交流施設、高質な商業・居住等の複合空間

品川駅街区地区
来訪者に分かりやすい玄関口

- 世界と日本各地からの人々を迎え入れる交通結節点
- 国際交流拠点として、機能的で分かりやすい駅周辺空間

海と風のゾーン（芝浦港南側）

水辺空間等を活かした、潤いと安らぎのある良質な複合市街地

田町駅東口北地区
環境と共生した魅力的な複合市街地

- 緑豊かな空間の創出、地域コミュニティの実現、都市の活力・活性化に資する複合拠点

田町駅東口地区
親密さと魅力のある複合市街地

- 就業と居住と教育等の機能を備え、多様な都市的活動が展開する、親密さと魅力のある複合市街地

芝浦水再生センター地区
次代を担う環境を形成

- 複合市街地と一体となったオープンスペースによる、潤いと安らぎの場
- 地域の環境に貢献する再生可能エネルギーを創出する場

品川駅東口地区
先進的で魅力的な複合市街地

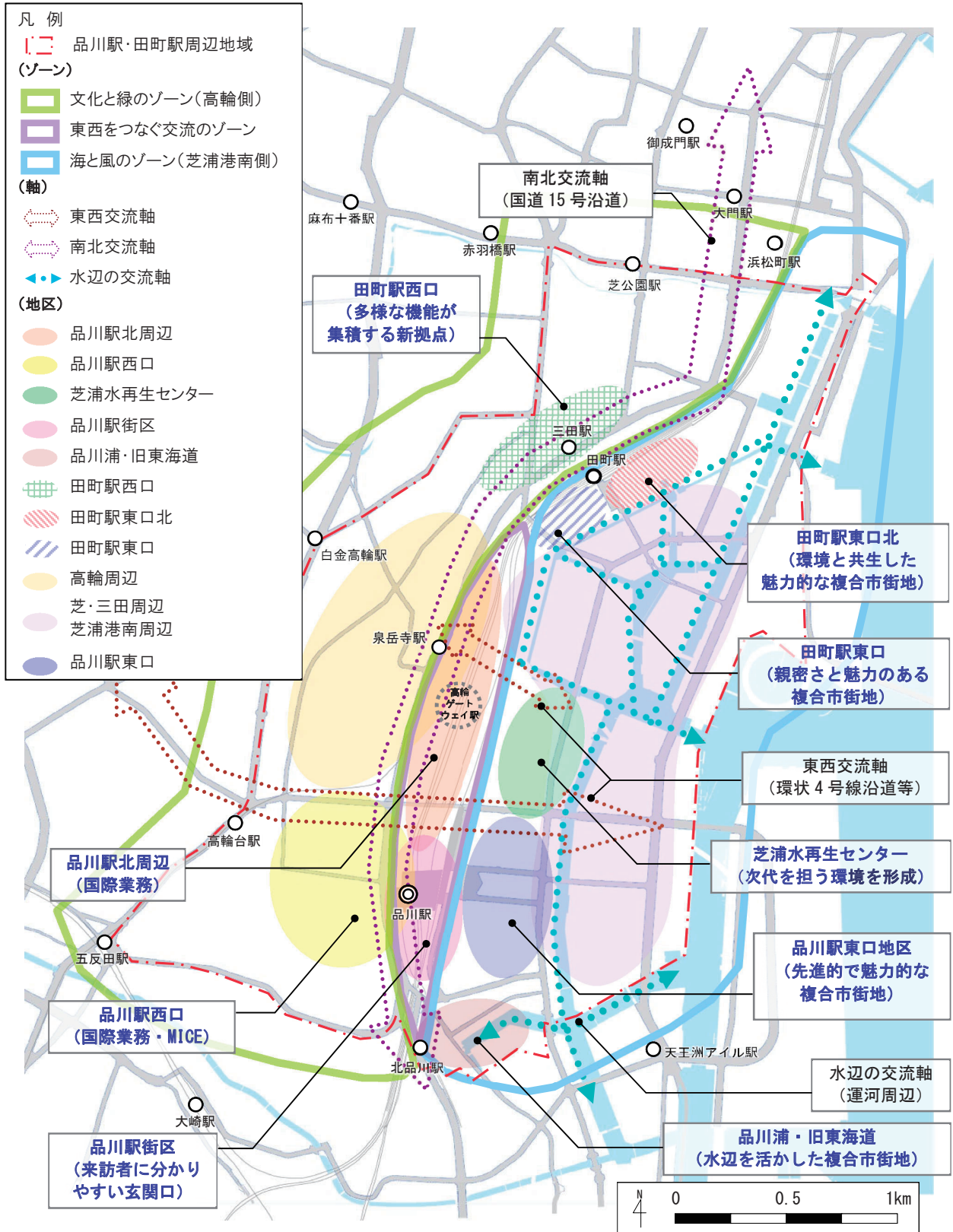
- 優れた交通利便性や水辺空間との近接性等の特性を活かした、先進的で魅力的な複合拠点

品川浦・旧東海道地区
水辺をいかした複合市街地

- 旧東海道宿場町の伝統・文化や、「品川浦」の貴重な水辺資源をいかした複合市街地

水辺の交流軸
運河周辺

- 水と緑、風を感じられる、質の高い回遊空間



※「ゾーン」は、周辺部を含めた地域特性に基づき設定した。
 ※「ゾーン」の重複部分はそれぞれの区域の将来イメージを踏まえて基盤整備・まちづくりを行う。
 ※P.016以降の下図は都市計画道路網をベースにしており、現道がない区間にも道路を表記している。